

開会挨拶・オープニング講演



桑島 俊彦（株式会社全国商店街支援センター 代表取締役社長）

皆さん、こんにちは。

「商店街フォーラム IN 関東 想いが原動力～人がつくる商店街～」と題しました当フォーラムに、本日 140 名の方にご参加をいただき、本当にありがとうございます。また開催にあたり、ご後援をいただきました関東経済産業局、ならびに中小企業基盤整備機構関東本部、茨城県、水戸市、中小企業 4 団体およびご関連の皆様には大変なご尽力をいただきまして心から感謝を申し上げます。

商店街支援センターについては約 10 年が経過しておりますので、ご理解をいただいていると思いますが、あらためてご案内させていただきます。皆様のお手元に資料として、年 2 回発行している「EGAO」という冊子をお配りしております。最新号のテーマは「暮らしに寄りそう商店街」。本日ご登壇いただくパネリストの皆様は、それぞれこういった取り組みをされているわけでございますが、後程ご一読いただきたいと思っております。

この冊子の 48 頁に、「商店街支援センターはどんなことができるのか」というのが書いてありますが、これについて若干補足をさせていただきます。平成 20 年、麻生内閣の時に、政府は「商店街はコミュニティの担い手である」という骨太の方針を打ち出しました。にも関わらず、当時の商店街は元気をなくして、コミュニティの担い手にはなれない。「その役割を果たすために商店街を元気にする法律をつく

ってほしい」ということを、その時、全国商店街振興組合連合会の理事長になって 8 年目だった私は、中小企業庁長官の長谷川榮一さん（現内閣総理大臣補佐官）にお願いにあがり、長官室にいらした中小企業庁の幹部 5 名の方々に私どもの思いを聞いていただきました。その後、順調に衆議院、参議院とも全会一致で可決され、お願いしてから約 1 年間で商店街を元気にする法律「地域商店街活性化法」が施行されました。また、同法律が施行される前の 7 月 28 日には、当フォーラムに後援していただいている全国商工会連合会、日本商工会議所、全国中小企業団体中央会、全国商店街振興組合連合会の中小企業 4 団体の出資により、株式会社全国商店街支援センターをつくりました。中小企業基盤整備機構から 50 億円、それから麻生内閣の第三次補正予算のうち 20 億円をお預かりして、合計 70 億円の資金で商店街を元気にするための会社ができたのです。

本日ご登壇のパネリストの皆様はそれぞれ商店街のリーダーでいらっしゃいますが、元気な商店街というのは、このような人心掌握ができてマネジメント力のある優れたリーダーがいる商店街でございます。しかしながらリーダーはなかなか出てきません。それならリーダーを作ろうじゃないかということで、まずは「商人塾支援事業」をはじめました。各地域から手をあげていただき、商工会や商工会議所に



事務方になっていただいて、15～20 名の塾生に 6～7 回のカリキュラムを実施する。そういう事業を資金面や人材の面から、お手伝いさせていただくというのを年に 6～7 か所でやっております。来年も 7～8 か所で実施予定ですのでぜひ手をあげていただければと思います。そういう人づくりの他に、最近では、技や専門知識のあるお店がそれを無料で提供することでお客さんの信頼を得て、顧客の固定化を図る、世間よし、店よし、お客よしという三方良しのまちゼミの実施を応援する「まちゼミ支援事業」もやっています。それから商店街でいちばん大事なのは繁盛店づくりです。専門家を商店街に派遣し、臨店研修で POP、レイアウト等おもにソフト面での改善をお手伝いする「繁盛店づくり支援事業」では、平均で昨対 20%くらい売り上げが伸びています。北九州の旦過市場のお店では 70～80%も伸びたお店があります。商店街のキモはとにかく繁盛店です。

それから地域商店街活性化法の認定を受けると、国が事業費用の 3 分の 2 を補助してくれます。あとの 3 分の 1 につきましては県や市が応援してくれると限りなく補助率は 10 分の 9～10 になります。この 10 年間に全国で 120 の商店街が認定を受けていますが、その 70%は支援センターがお手伝いをさせていただいております。国からお預かりした資金でこのセンターは存続しているわけでございますから、ぜひとも皆様にご活用いただきたいと思っております。

商店街について最近どのような状況かという、今、地元の商店街で買い物をする人がほとんどいなくなっています。先日、出席した東京都の「中小企業振興を考える有識者会議」の冒頭で、「このなかに商店街で買い物している人は手をあげてください」と聞いたら、小池知事が手をあげただけで他の人は誰もあげてくれません。そんな状況なのです。インターネット販売が便利な時代になってしまい、スーパー、量販店、ディスカウントストアがあり、コンビニに行けばすぐ買い物が間に合うという、商店街は非常に厳しい状況に追い込まれてきております。今商店街では、魚・肉・野菜の生鮮三品を売る店が消えてきて

います。最近では本屋さんがまちから消えていく。活字離れで消えていくのではないのです。昨日警視庁で「東京万引き防止官民合同会議」というのがありました。私はその広報委員長をやっているのですが、皆さん、万引きてどのくらいの被害額だと思いますか？実は、万引きの被害は、1日12億5千万円、年間4600億円なのです。オレオレ詐欺被害は500億円で、万引き被害はその10倍なのです。本というのは売上の2割しか利益が出ませんから書店1店が年平均200万円万引き被害にあうと、赤字に転落してしまうんです。活字離れじゃないんですね。さらにその万引きした本を買ってぬくぬく大きくなる本屋がある。それがなかなか摘発しきれていない。最近では外国人の窃盗団に棚ごと持って行かれるというようなこともあります。

そういうこともあり、商店街では30年前に65%あった物品販売業のシェアは現在40%になり、飲食業、サービス業が台頭し、だいぶバランスが変わってきました。もちろん飲食業、サービス業の方たちにも商店街活動に参加してもらい一緒にまちづくりをやっていくことも大事ですが、これからの商店街のフィールドとして、価格競争や過剰な利便性の追求とは一線を画し、新たなサービスを地域住民に提供し、暮らしのパートナーになっていくことが肝要だと思っています。地域商店街活性化法もそうですが、商店街は、市民の日常生活を支えること、安全・安心や、環境、子育て、食育、お年寄りの相談相手から文化の創造・伝承等も担っていこうということでございます。

安心・安全については、本日は、明大前商店街（東京都世田谷区）の民間交番のピースメーカーズの取り組みについての発表があらうかと思えます。また、ポイントカードを使った見守り機能や、よろず相談とか、最近ではカード化されたコンプライアンスがしっかりしたプレミアム商品券の開発が進んでいたり、徐々にキャッシュレス化等の方向に進んでいくのかと思っております。商店街のイベントにつきましても、「イベントは終わったら疲れしか残らない」という声が多かったりします。後程、六角橋商店街（神奈川県横浜市）の理事長さんのお話があると思えますが、実は、イベントは平時における防災訓練なのです。それにより向こう三軒両隣の意識ができ、地域社会の振興に役に立つものなのです。

さて、商店街の公共的役割について、ある評価の結果があります。商店街の公共的役割について、良いと思う人=82%、住民生活に必要・役に立っていると思う人=87%、という結果が出ていますが、活動を知らない=42%という数字があります。商店街は地域のために一所懸命に活動しているのに発信力がないのです。今後は、いかにして活動を発信し、評価してもらい、住民と一緒にまちづくりができるかということがすごく大事だと思っております。今年、冊子「EGAO」の春号で、“おくりびと”の脚本や“くまモン”のプロデュースを手掛ける発信力の大家であります小山薫堂さんと対談をさせていただきました。その時に、とにかく物語（ストーリー）をつくって広く浅くではなくて、狭くてもいいから奥行きは深く、こだわって発信することが大事というようにお話をいただきました。「EGAO」に対談記事がありますので、ご一読いただければと思います。

これまで、地域経済の活性化のために、商店街が元気になり、コミュニティの担い手になるためのお話をしてきましたが、地域性も考慮しなくてははいけません。商店街は社会的な信用力や組合活動のため



に、できれば法人格をもっていただければと思っております。現在全国には、商店街は 13,000、そのうち振興組合は 2,000、協同組合と合わせても 3,000 弱です。なかには株式会社化するところも出てくると思います。そのような状況も含め、最後にもう一つ申し上げたいのは、「商店街で商売する人は商店街に加盟してください」ということです。商店街が、にぎわいを創出するための事業やイベントを行う際、企業は企業市民として参画し、応分の負担をしていただきたいのです。できれば、各地で条例を皆様の働きかけでつくってください。私の商店街は世田谷区ですが、平成 16 年 4 月 1 日に第 1 号の条例をつくりました。現在全国 120 自治体に条例ができました。条例は努力規定ですが、最近、世の中はコンプライアンスを重視せざるをえなくなっています。企業市民として出店するのであれば商店街に会費を払い、応分の負担をして参画するという企業も増えています。

地域社会を組織化し地域の皆様に十分な信託をいただきながら、商店街としてまちづくりをしていただきたいと思っております。そのために全国商店街支援センターは、出来るだけのお手伝いをしておりますので、ぜひご活用いただければと思っております。

皆様方のますますのご発展とご健勝を祈念し、また、来年が皆様方に良い年でありますことも祈念して挨拶にかえさせていただきます。ありがとうございました。